

フォーカス政治

表題は週刊東洋経済の11月26日号。山口二郎・法政大教授が「民主主義政治の劣化が世界的に拡大している」と語る。同感するところが多いので抜粋して紹介したい。写真下は同誌掲載。

第2次安倍晋三政権の誕生以来、私は民主政治の劣化を「アベ化」と呼んできた。それは次のような現象である。1 極めて自己愛の強い幼児的人物が権力を握る。2 自己愛の裏返しで、権力者は批判や忠告を聞き入れることができず、逆に批判する者を憎悪する。3 さらに批判する者に対して、権力者はあらゆる手段を使って攻撃を加える。特に批判的なマスメディアとの関係でこのような行動をとる。4 権力者は、うそがばれても恥じることなくつねに自己正当化を図る。5 権力者とそれを支持する勢力において、事実と虚偽の区別ができない反知性主義が蔓延する。

アベ化は世界に広がり、米国ではドナルド・トランプ大統領の誕生という事態となった。安倍首相の側近は、首相とトランプ氏は気が合うだろうと言ったが、自己愛が強く虚言癖があるという点で、同じ穴のムジナである。さらにトランプ氏の勝利には、近代以来の民主主義の歴史を逆転させる大きな衝撃がある。民主主義あるいは文明社会が依拠する建前を徹底的に冷笑し、特定集団に対する差別やいじめを公言した人物が、常識的メディアでひんしゆくを買いながらも勝利した。

もちろん、トランプ政権はビジネス優遇の政策を取るだろうから、溜飲を下げたはずの市民はすぐに裏切られるだろう。国内の不満をかわすために、政権は外に敵を作るといふ安易な手法を多用するに違いない。米国の経験は日本にどのような教訓を与えるか。人々の暮らし向きが悪くなる中で憎悪と分断の政治が広がるという点で、日本は米国と同じ危険を内包している。アベノミクスが破綻した後どのような選択肢が現れるのか。和製トランプとなるのは、橋下徹前大阪市長と小池百合子東京都知事が作ると予想されている新党だろう。彼らは本質的には安倍自民党と同じだが、野党的スタンスを取ってポスト安倍首相のチャンをうかがっている。もちろん橋下氏が大阪市長時代に起こした公共政策の破壊と行政の混乱を見れば、この動きが建設的な選択肢を提示できるとは思えない。次の衆議院選挙に向けて、民進、共産、自由、社民の4野党は、選挙協力の話し合いを本格的に始めようとしている。単なる選挙区調整ではなく重要なテーマに関する共通政策を打ち出すことが必要であり、政策論議の場には市民の参加を仰ぐことが重要である。野党は日本の民主主義に関する強い危機感を持って協議に臨んでもらいたい。



(2016年11月28日)